令和７年２月２５日
産業建設委員会資料
都市づくり部地域整備第一課

上野地区まちづくり推進について

１　背景・目的

令和2年3月に策定した「上野地区まちづくりビジョン」に掲げる2040年代頃の上野の将来像実現に向けて、歩行者の回遊性向上に向けた取組やまちづくり誘導方策等の検討を進め、上野地区の魅力や価値の更なる向上を図っていく。

２　令和６年度の主な取組

（１）エリアマネジメント体制の構築に向けた検討

杜とまちの連携を図るエリアマネジメント体制の構築に向け、地域主体のまちづくり活動の現状を整理し、それらの活動を支援するための仕組みや体制について検討を行った。その内容について上野地区まちづくりビジョン推進会議の専門部会である「まちづくり推進部会」において議論を行った。本部会における各委員の意見を踏まえ、地域の関係者と意見交換を開始した。

（２）まちづくり誘導方策の検討

上野駅周辺の周辺環境の保全と都市更新の両立を図りながら、地域特性を活かした世界遺産のあるまちに相応しい景観を形成していくため、「上野地区景観形成ガイドライン」の策定に向けた検討を行った。

（３）ウォーカブル推進の取組

上野地区のウォーカブルなまちづくりを推進するため、上野公園北部エリアまちづくりイベントをはじめ、杜・まち・駅の回遊性向上に向けた「上野広小路ヒロバ化社会実験」（別紙１参照）やパンダ橋における公共空間活用の可能性を検討する社会実験（別紙２参照）を実施した。

３　令和７年度の主な取組

令和６年度の取組内容を踏まえ、令和７年度については、上野らしい風格や賑わいのある都市空間の創出やウォーカブル推進に向け、地域や事業者等の多様な主体と連携したまちづくりを推進していく。

（１）まちづくり誘導方策の検討

上野地区まちづくりビジョンの実現に向け、杜とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入や土地利用の増進に向けたまちづくり誘導方策の検討を行う。

（２）ウォーカブル推進の取組

上野地区ウォーカブル推進に向け、公民連携による公共空間利活用の社会実験（中央通り、パンダ橋）等を実施し、道路空間等の活用可能性を検討するとともにパブリックスペース等の利活用など、地域主体の杜まち連携に資する取組を推進するための仕組みや体制を検討していく。

（３）上野公園北部エリアにおける回遊性向上

上野公園北部エリアにおける回遊性向上に向け、歩行者ネットワークの充実を図るため、ＪＲ鶯谷駅と上野恩賜公園を結ぶ特別区道台第６２号線の修景整備に向けた道路詳細設計を行う。

４　予算額（案）

１８４，９６４千円

中央通り社会実験　～「上野広小路ヒロバ化社会実験」～

別紙1

１．社会実験の概要

上野の杜・まち・えきの回遊性向上を目指すとともに、道路空間の利活用の可能性を検討するため、公民連携による社会実験を実施した。

ＪＲ上野駅広小路口広場前の中央通りを歩行者に開放し、居心地が良く歩きたくなる歩行者空間を設けるとともに地元商店街等と連携し、マーケットの開催や音楽演奏を行うなど、歩いて楽しいまちなか空間を創出した。

（１）実施日　　令和６年１０月２７日(日)
　　　　　　　　１４：００～２０：００
　　交通規制時間：１２：００～２１：００

（２）実施主体　上野まちづくり協議会（主催）
　　　　　　　　台東区(共催)

（３）実施箇所　右図のとおり

（４）実施状況

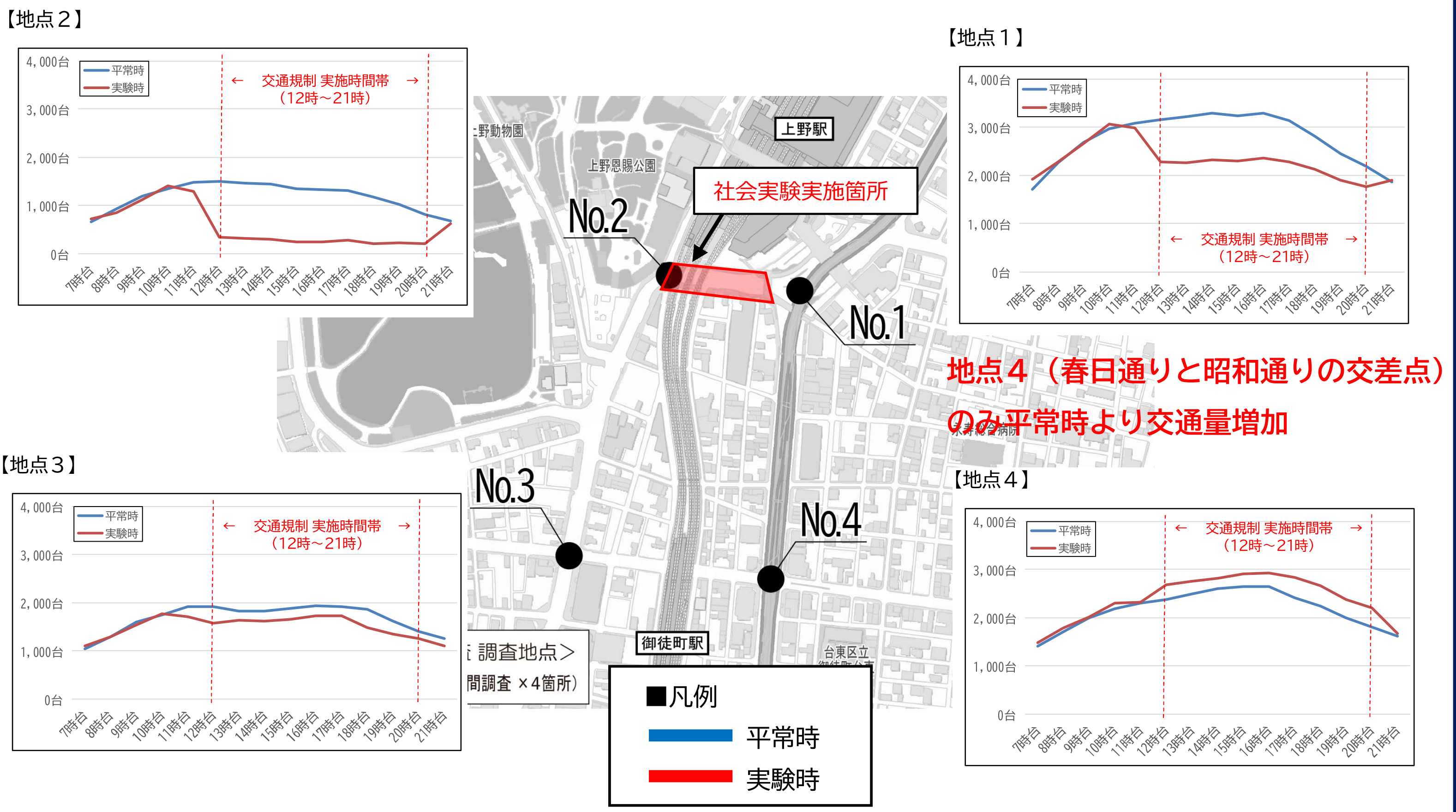
２．社会実験の実施結果

■自動車交通量調査結果

（１）調査箇所　下図のNO.１～NO.４交差点

（２）調査日　　実験時：令和６年１０月２７日（日）　平常時：令和６年１１月１０日（日）

（３）調査結果　実験時の車両通行止め時間帯については、春日通りと昭和通りの交差点において平常時よりも交通量が増加したものの自動車交通による大きな影響は発生しなかった。
また、秋葉原の歩行者天国が終了する１７時以降の中央通りの交通量は、大きく増えることはなく、夜間についても大きな影響が生じないことを確認した。



■歩行者の回遊状況

・非常に多くの歩行者が、歩行者専用化された車道を歩いており、道路上での憩い・賑わいの空間が創出された。

・上野まちづくり協議会が、杜側、まち側の施設にチェックポイントを設けたデジタルスタンプラリーを活用した歩行者の回遊を促す取組を行った。
※スタンプラリー参加者：３７６名（８日間　10/20～27）
　　　　　　　回遊数：６１５回（1人で複数回の回遊あり）

・歩行者交通量調査を自動車交通量と同様に平常時と実験時で実施した。
マルイ前の横断歩道の通行量については、平常時よりも実験時の方が大きく増加しており
歩行者専用化された道路空間に多くの方が通行していたことがわかった。
（社会実験中の６時間で約3,000人の増）

パンダ橋社会実験　～「パンダバシピクニック2024　Autumn」～　別紙2

社会実験の実施結果

　活用したくなる拠点の創出や杜・まち・えきの回遊性向上を目指すとともに、パブリックスペースの活用可能性を検討するため、公民連携による社会実験を実施した。

　地元の飲食店舗の出店や岩倉高校ダンス部によるダンスパフォーマンスなど、地域と連携した居心地の良い屋外空間を創出した。

（１）実施日

　　令和６年１０月２６日（土）12:00～19:00

　　　　　　　　　２７日（日）12:00～18:00

（２）実施主体　ＪＲ東日本（主催）

　　　　　　　　台東区(共催)

（３）実施箇所　右図のとおり

（４）実施状況

■歩行者の回遊状況について

　社会実験時の歩行者通行量は、平常時と比較して増加しており、歩行者の回遊性向上が図られた。

社会実験時と平常時の歩行者通行量調査結果

日時	上野公園方面から東上野方面への歩行者数	東上野方面から上野公園方面への歩行者数
令和６年１０月２６日（土） １４時～１５時（実験時）	６３３人	５０１人
令和６年１０月１２日（土） １４時～１５時（平常時）	４８２人	３５７人

■利用者のアンケート調査結果について

　ＷＥＢアンケート、常設看板によるシールアンケートを実施

　○パンダバシピクニックに必要な機能（回答数：１５３件）

　　日除け・雨除けの屋根、子どもの遊び場、みどりや花のある場所、映画上映、足湯を希望する回答が多く見受けられた。

　○パンダバシピクニックを開催して欲しい頻度（回答数：５３件）

　　「毎週末」、「月に１回程度」あわせて約８割の回答があった。